ビオトープフォーラム in 盛岡2012

一 永続的な三陸復興を目指して!!-

実施報告書

日時:2012 (平成24) 年6月8日 (金) 13:15~17:00 場所:アイーナ5階501号室 いわて県民情報センター(盛岡市)

主催:NPO 法人 日本ビオトープ協会

共催:岩手県立大学 岩手・木質バイオマス研究会

後援:環境省 文部科学省 農林水産省 国土交通省 岩手県 NHK 盛岡放送局

NPO 法人環境パートナーシップいわて 認定 NPO 法人自然環境復元協会 (順不同)

◇フォーラム参加者	合	† 7	3名					
官庁関係	1	名	環境団体関係	7	名	一般	9	名
マスコミ関係	3	名	学生・学校関係者	14	名	造園団体・造園業者	7	名
日本ビオトープ協会	32	名						

◇総括

『ビオトープフォーラム in 盛岡 2012』は、地元盛岡をはじめ全国から参加をいただき、三陸復興をテーマに盛大に開催することができました。関係官庁・協力団体等の後援と講師の先生、協会員の方々をはじめ、多大なご協力をいただきました岩手県立大学・NPO法人環境パートナーシップいわてに対して感謝の意を表します。また、ご多用中にも関わらず、岩手県立大学学長中村慶久様、岩手県環境生活部環境生活企画室主任主査菊地幸男様、NPO 法人環境パートナーシップいわて副代表理事佐々木明宏様にご臨席を賜りました。

フォーラムでは、はじめに、協会会長櫻井淳より開会の挨拶として、今年度東北で開催する事にした意義と 開催に至る関係者への謝意が述べられ、また持続可能な環境づくりと自然の中で過ごす楽しさの重要性につい てお話しいたしました。

第1部では、ビオトープ顕彰委員会副委員長、横浜国立大学学長・鈴木邦雄氏の講評と、『第4回ビオトープ顕彰』表彰式が行われ、本年度ビオトープ大賞の岩手県立大学中村学長始め各受賞者に櫻井会長から表彰状が手渡されました。引き続いて事例発表が行われ、大学構内の調整池とその周りの環境を含めた広大なビオトープと、小学生が中心となり活発な活動をされている学校ビオトープの2件の事例が紹介されました。岩手県立大学の発表では長年の計画的な管理によって、岩手レッドデーターブックの貴重種、ヨシゴイ・バンの繁殖も見られる高度なビオトープで、豊田市立挙母小学校ビオトープとともに、地域の特徴的な環境に配慮して維持・管理に取り組まれた様子と、これを持続していくことの大切さを強く感じました。

第2部は岩手県立大学総合政策学部教授・平塚明氏の基調講演をいただきました。「三陸被災地の自然再生は地域の復興を意味する」「攪乱の起こる場所に住まず、自然に返す」など示唆に富んだお話が印象的でした。 続いて岩手大学農学部共生環境課程準教授・伊藤幸男氏にご講演いただきました。バイオマスの持続的活用の 為に、林業の活性化と地域での熱供給として、地域経済に生かす事の重要性が述べられました。どちらも参加 者に大きな感銘を与える講演となりました。

閉会の辞は、協会副会長久郷慎治よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。

このフォーラムを通じて、地球環境の改善・生物多様性社会・いのちを知る環境教育等の重要性を再認識し、 当協会の役割と責務の大きさを実感いたしました。今後も自然との共生をめざした活動を推進し、持続可能な 地域づくりに貢献して参ります。

最後に、皆様のご協力に対し心より厚くお礼申し上げ、今後ともご指導・ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

2012年6月吉日

一別紙レジュメ資料集の通り、無事終了いたしました-





~フォーラムの様子~

◇第1部 ビオトープ顕彰受賞作品の表彰



環境学習推進賞『国営備北丘陵公園 ひばの里 ビオトープ』 地域貢献賞・CSR 特別賞『横浜ビジネスパーク』



環境教育賞『三南トープ』



地域貢献賞『うねべ里山』 (中部地区委員長鈴木副会長代理)



技術特別賞『県立成東高校 ビオトープ庭園』



顕彰委員長賞『兄弟社村ビオトープ』



――――― 学校ビオトープ大賞 『ネイチャーワールド みんなのころも川』





ビオトープ大賞 『岩手県立大学第一調整池』



講評 顕彰委員会副委員長·鈴木先生

◇第2部 基調講演·講演、顕彰事例発表



講演 伊藤先生



顕彰 事例発表 ビオトープ大賞

学校ビオトープ大賞



◇開会・閉会の挨拶等



司会·東北地区委員長 佐藤副会長



挨拶・地元会員、フォーラム in 盛岡担当 野澤副会長



開会の挨拶・櫻井会長



閉会の辞・久郷副会長